

LSN

Library Service News

Kyoto University Library

No.4

11月の図書館

行：京都大学附属図書館情報サービス課

LSN発行室 1994.11.1

記事についてのお問い合わせは

☎ カンター

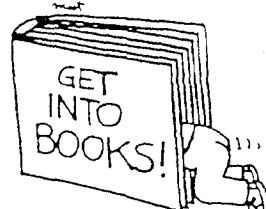
参考調査掛 (753-2636) ⑦

資料運用掛 (753-2632) ②～⑤

雑誌・特殊資料掛 (753-2640) (3階)

相互利用掛 (753-2638) ⑥

編集：平野：川浪



京都大学附属図書館開館日程表

11月	開館時間	12月	開館時間	1月	開館時間
1 (火)	9:00～21:00	1 (木)	9:00～21:00	1 (日)	休 館
2 (水)	"	2 (金)	"	2 (月)	図書整備等のため
3 (木)	休 館	3 (土)	10:00～17:00	3 (火)	冬季休館日
4 (金)	9:00～21:00	4 (日)	休 館	4 (水)	"
5 (土)	10:00～17:00	5 (月)	9:00～21:00	5 (木)	"
6 (日)	休 館	6 (火)	"	6 (金)	9:00～17:00
7 (月)	9:00～21:00	7 (水)	"	7 (土)	10:00～17:00
8 (火)	"	8 (木)	"	8 (日)	休 館
9 (水)	"	9 (金)	"	9 (月)	9:00～21:00
10 (木)	"	10 (土)	10:00～17:00	10 (火)	"
11 (金)	"	11 (日)	休 館	11 (水)	"
12 (土)	10:00～17:00	12 (月)	9:00～21:00	12 (木)	"
13 (日)	休 館	13 (火)	"	13 (金)	"
14 (月)	9:00～21:00	14 (水)	"	14 (土)	10:00～17:00
15 (火)	"	15 (木)	"	15 (日)	休 館
16 (水)	"	16 (金)	"	16 (月)	"
17 (木)	"	17 (土)	10:00～17:00	17 (火)	9:00～21:00
18 (金)	"	18 (日)	休 館	18 (水)	"
19 (土)	10:00～17:00	19 (月)	9:00～21:00	19 (木)	"
20 (日)	休 館	20 (火)	"	20 (金)	"
21 (月)	9:00～21:00	21 (水)	"	21 (土)	10:00～17:00
22 (火)	"	22 (木)	"	22 (日)	休 館
23 (水)	休 館	23 (金)	休 館	23 (月)	9:00～21:00
24 (木)	9:00～21:00	24 (土)	10:00～17:00	24 (火)	"
25 (金)	"	25 (日)	休 館	25 (水)	"
26 (土)	10:00～17:00	26 (月)	図書整備等のため	26 (木)	"
27 (日)	休 館	27 (火)	冬季休館日	27 (金)	"
28 (月)	9:00～21:00	28 (水)	"	28 (土)	10:00～17:00
29 (火)	"	29 (木)	"	29 (日)	休 館
30 (水)	月末休館日	30 (金)	"	30 (月)	9:00～21:00
		31 (土)	"	31 (火)	月末休館日

上記日程に変更のある場合はその都度掲示いたします。(94.10)

▽冬季長期貸出のご案内 △

開架図書

12/12～

返却日はいずれも

95.1/13(木)です

庫内図書 院生・教職員

11/28～

学部生

12/12～

※ 館内での飲食は「禁止」しています。※

お問い合わせ先・資料運用掛 (753-2622/2623)

⑦番カウンターでは・・・

- 小川幸三（志士）の建白書といわれるものがあるか？ 活字になったものを尊攘堂で見たことがあるのだが
- 原爆の被害者の統計は？
- 明治時代 東京に「シンブンジュウランジョ」というものがあつたそうだがどんな所だったか
- 福永武彦の「わかれの歌」が知りたい
- IRE Proceedings のSummer Meeting at San Francisco が欲しいのだが
- ドジョウの解剖図をかいたどんな文献でもよいが、教えて欲しい
- 海外における学術会議プログラムの日時を知りたいのだが、載っている雑誌はないか
- 外国人名を日本語標記にする場合のルールは？
- 「家庭雑誌」の出版社である「由分社」の読み方を知りたい
- 「京都医学雑誌」の第8巻第3号は、昭和何年発行でしょうか
- トイレに関する文献を集めているのですが、重点的に収集している図書館はないでしょうか？
- 三島由紀夫の戒名は？ またお墓はどこにあるのでしょうか
- 京大西部講堂の作られた頃のことを知りたい



など 様々な質問を受けています。このように7番カウンターでの質問の内容は多様ですが、私達はこれらを所蔵・事項調査、一般指導とよんでいます。

図書の所蔵調査は、京大内なら1Fフロアーにある端末機で、調べて下さい。全国にわたる時は、カウンター内の業務用端末で調査できます。これは掛員が行いますが、これらの調査は大体1985年以降に受入られたもののみですので、それ以前は京大内の所蔵ならカードで、それ以外は“本＝参考図書”で調べる事になります。

雑誌の所蔵の調査は、京大内なら図書と違って、年代に関係なく1Fフロアーにある端末機で調査できます。京大以外なら、学術雑誌総合目録を見て下さい。

カウンター内の端末機での調査は、年代が限られています。データベースでカバーできる調査以外は、“本＝参考図書”を使っておこなわざるを得ません。そのため、各種の参考図書を受け入れています。最近入ったものの一部を紹介します。

● ARENTS文庫 世界たばこ文献総覧 たばこ研究センターアレントス文庫委員会編 新 1993

ARENTS文庫は、George Arents Jr. が40年余りにわたって収集したたばこ資料のコレクションで、たばこを扱った重要著書はほぼ全て収集されており、現在はニューヨーク公立図書館に寄贈されています。本書はニューヨーク公立図書館によって発行された解題目録5冊と、補遺10冊を翻訳したものです。

● 京都の文化財地図帳 京都府文化財保護基金編 新 1993

京都府に所在する国指定、京都府指定、府下市町村指定等の文化財に加え、埋蔵文化財の発掘調査の結果もふまえて主要な遺跡をそれぞれ地図の上に示し、あわせて、京都の文化財の特徴についての解説もついています。

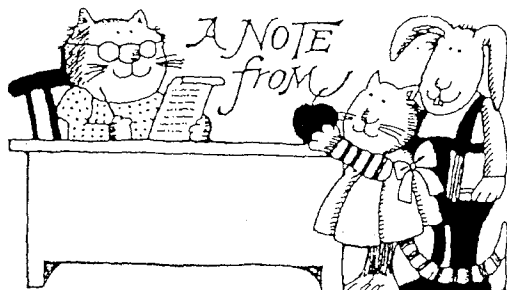
● 最新海外作家事典 旺文社編 新 1994

1985年以後約10年間に日本で作品が翻訳され、現在活躍中の作家を中心に約1900人を収録しており、作家の範囲はノーベル文学賞などの各種文学賞受賞作家からミステリー作家、脚本家まで、幅広く収録されています。それぞれ国籍、職業、本名、別名、生年月日、出身地等のほか、経歴や作風、主著など作家のプロフィールが載っており収録作品は約6300点にのほります。

例えば『マディソン郡の橋』の作者、ロバート・J. ウォラーについては 以下のとおりです。

アメリカの作家。1939年アイオワ州ロックフォード生まれ。インディアナ大学で経済学博士号取得。北アイオワ大学で25年間教職について、ビジネススクールの学部長をつとめたが、1985年体調を崩して退職。エッセー集を2冊出版した後、92年中年男女の恋愛を描いた小説「マディソン郡の橋」を発表。（中略）経済学者、アマチュア写真家、フォークシンガーなど多彩な顔を持つ。アイオワ州シーダーフォールズ在住。

（詳しくは参考調査掛⑦カウンターまで）





文庫本が機械貸出になりました。



今まで文庫本は1冊しか貸し出し出来ませんでしたが開架図書を含めて5冊まで貸し出しできるようになりました。ご利用下さい。

大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞

大江健三郎氏の本を読んだことがありますか？今、京都大学附属図書館では大江健三郎氏の本を新刊案内板の前に集めて置いてあります。（ただし、開架の本だけです。書庫の本はカウンターで受け付けています。）興味のあるかたはご利用下さい。



ヒロシマ・ノート 4-48/ヒ/15B (書庫)
死者の奢り 4-44/シ/16 (書庫)
ヨーロッパの声・僕自身の声 5-89/ヨ/4 (書庫)
大江健三郎同時代論集 1~10 4-21/オ/21 (開架)
大江健三郎全集 1~6 4-21/オ/10 (開架)
キルプの軍団 KH/449/キ1 (開架)
生き方の定義 KH/449/イ2 (開架)
いかに木を殺すか KH/449/イ1 (開架)
大江健三郎文学事典 KG/510/オ8 (開架)
日本の原爆文学 9 KH/6/ニ1/9 (開架)
状況へ 4-48/シ/75 (開架)

他

(詳しくは資料運用掛②~⑤カウンターまで)

展示会あれこれ

平成6年度展示会開催中間報告

今年度の展示会は幕末から明治維新にかけた時期をテーマにして、図書館では「吉田松陰とその同志」として46点を展示しました。同時に電子図書館のデモも行うという趣向も加わり、少し毛色の変わった展示会となりました。10月22日までの来館者のうち865名の方からアンケートの回答を戴き、回収率は約75%という高い数字となりました。

アンケートの中に書かれていた内容の集計作業を行なっていますが、今回は展示品の中で、観覧者が興味を持ったものについて、簡単に紹介すると、「直筆もの」「生の資料」しかも世間で知られた幕末の志士たちのものを間近に見られた感動を書いておられる方が大部分を占めます。46点の展示品の注目度を拾ってみますと感じとして、①「尊攘堂写真」②「吉田松陰・画像」③「佐久間象山・山水画」④「高杉晋作・七絶」⑤「藤本鉄石・書状」が5本の指に入ります。

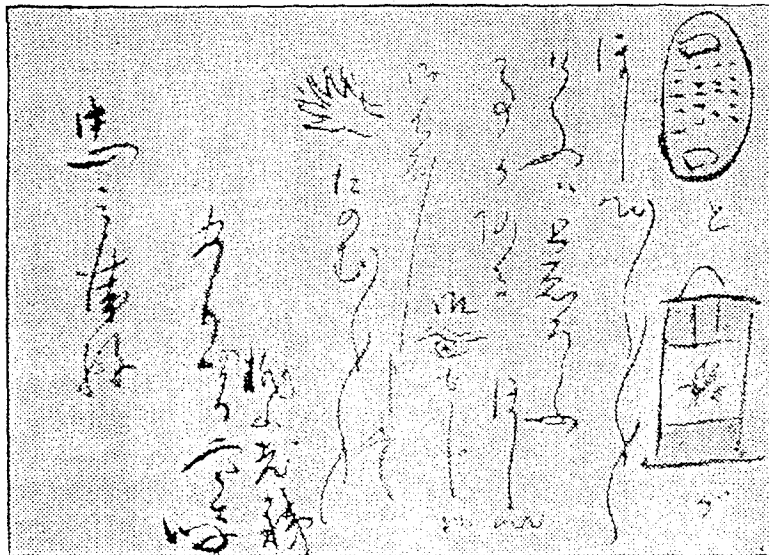
①の写真は何と言っても時代を重ねたセピア色の写真が醸し出す雰囲気も手伝って魂を吸い取られる悪魔の機械だなどと恐れられたこともある写真に決死(?)の覚悟で被写体になったのではないかとさえ思われる趣が伺えます。

②の松陰画像は、本学の学生諸氏など若い人たちの人気(注目度)という点で⑤の鉄石の書状と双壁をなすものですが、教科書で見てきたものの現物を初めて見られて良かったと言う人が多いようです。

③の象山の山水画は、佐久間象山の多才さを改めて再確認したと言う人が多く評判が良いようです。

④の高杉の七絶は、久坂玄瑞、伊藤博文のそれ、あるいは木戸孝允の詩とともにこの書の勢いの良さ等、書体を見て、人柄や事跡を思い合わせる時のおもしろさを述べておられた方が多いようです。中に七言絶句のことを七絶と呼ぶのが普通なのですかと聞かれる場面もありました。

⑤の鉄石の書状は、御存じのとおり、小判と掛け軸の絵入りの書状で「欲しい、欲しい」と無心をしているのですが、これについては若い層を中心に多くの方がユーモアを感じとられたようです。



これらのアンケートからも分かるように、今の時代には視覚に訴えるものが好評のようですネ。なお展示会の報告は、京大図書館報『静脩』次号に掲載の予定です。

(詳しくは雑誌・特殊資料掛＝3階カウンターまで)